



敦賀港



車いす購入のためアルミ缶回収に取り組む児童

明治期からヨーロッパとの交通の拠点として知られた福井県・敦賀港。ここは、ロシア革命後の混乱で家族を失ったポーランド孤児や、映画になった杉原千畝^{ちうね}さんの「命のビザ」を持ったユダヤ人難民が上陸した日本唯一の港でもありました。彼らを温かく受け入れた敦賀市民の伝統は、今を生きる子どもたちにも受け継がれています。

様

々な社会貢献活動により、令和元年度の「小さな親切」運動賞・団体の部を受賞された福井県敦賀市立沓見小学校。いわば、今年度日本で一番親切な学校となったわけですが、親切が当たり前で、自分たちの行動が親切であることを認識

していない子どもが意外なほど多いという不思議な現象が……。そこで表彰式を前に、「小さな親切」とは何か、また今までの自分たちの活動に、どのような親切が含まれているのか、お話ししてほしい！という校長先生のリクエストを受け、11月9日（土）、「みんなで親切をしよう」というテーマで、山橋由貴子専務理事が講演を行いました。

訪

問日は「秋のオープンスクール」ということで、校長先生に校内を案内していただきました。全学年で道徳の授業参観が行われており、保護者参加型の授業も大変興味深いものでしたが、さらに廊下に貼り出された『アルミ缶回収と車いす寄贈』や『Happy Companyくつみ』（自作のお菓子やパンフレットで敦賀の街や特産品をPR）などの活動の記録では、郷土愛と自主性に溢れた沓見小学校の子どもの姿が伝わってきて、私たちも感心しどおして、そんな子どもたちへの講演では、「小さな親切」八か条に込められた思いや、福井県内の親切運動、世界の子どもたちが考える

親切などを、なるべく分かりやすくお伝えしましたが、皆さん、どんな感想を持ってくれたでしょうか。

〈児童の感想〉

●今まで「小さな親切」を気にしていませんでした。けれど今日のお話を聞くと、私は親切をしていると思いました。親切はとても大事なことで分かりました。これからは、心を込めてアルミ缶回収や、クリーン大作戦をしたいです。（3年生）

●私はバスなどで、おじいちゃんに席を譲ったことがあります。それが「小さな親切」であること、できることは、できるだけやるということとがわかりました。（4年生）

●『「小さな親切」は、みんなでやると、

とても大きな親切になる」とい

う山橋さんの言葉が、とても心に残りました。（5年生）

●「小さな親切」は、ちょっとしたことから始めることで、自分も地域も気持ちよくなり輝きます。これからは、アルミ缶回収や、クリーン大作戦だけでなく、個人でもできる「勇気」と「優しさ」を持ちたいです。（6年生）

親

切の持つ力に気づいてくれて、嬉しい限りです。沓見小学校の皆さん、これからもできることから親切を続けてください！（報告・木村京子）

人道の港 敦賀

沓見小学校の子どもたちに自然な親切が根付いているのは、敦賀市民が昔から見知らぬ人にも当たり前に親切にしていたからかもしれません。港を訪れた外国人に、敦賀の人々が温かいもてなしをしたエピソードは多々ありますが、特に心を打つのはユダヤ人難民に対する「リンゴの少年」の親切です。彼は、着の身着のまま敦賀に降り立った空腹の難民に、リンゴなどの果物が入ったかごを無償で差し出し、立ち去ったといひます。

温かい気持ちになるそんなお話の数々……。2020年度にはリニューアルオープンが予定されている資料館『人道の港 敦賀ムゼウム』で詳しく知ることができますよ！



少年が贈ったリンゴをイメージしたタオル

